

監修：福井次矢 編：小松康宏，渡邊裕司

Pocket Drugs 2014

書評者：大内尉義(虎の門病院・病院長)

福井次矢先生が監修され、小松康宏先生、渡邊裕司先生お二人の編集と、臨床疫学、臨床内科学、臨床薬理学を専門とされるお三方の手による『Pocket Drugs 2014』は、現在、わが国の臨床現場において使用されているほぼすべての医薬品の効能、適応、用量・用法、副作用や禁忌等の注意事項など、薬物療法に関する最新の知識をまとめたものである。言うまでもなく、薬物治療は医療の中心であり、すべての医師は現行の薬剤について精通しておく必要がある。本書はその手助けをする目的で編纂されている。

本書の最大の特徴は、その名の通りポケットに入るサイズの中に、個々の医薬品に関する情報が満載されていることであるが、多忙な外来、入院診療の場で使われる本書のような reference book は、必要な情報に素早くアクセスできることがきわめて重要であり、本書はそのためさまざまな工夫がされている。4色刷りのカラフルな紙面は、項目による色使いが統一されていてわかりやすいだけでなく、見ていて楽しい。索引も事項索引、薬剤索引が充実していて目的の薬剤へのアクセスが容易である。また、各章の冒頭

に、そのジャンルの薬剤の特徴、作用機序などの総論的事項がわかりやすく記載されているのも本書の有用性を高めている。さらに、その中に、ガイドラインにおけるその薬剤の位置付けとエビデンスが記載されており、また個々の薬剤の最後にも「治療戦略」として〈evidence〉の項があり、エビデンスを重視する編集の特徴がよく表れている。薬剤の写真付きであること、薬価が記載されていることも有用で、さまざまな点で大変よく工夫されている。

「その名の通りポケットに入るサイズ」と書いたが、やはりこれだけの頁数になるとポケットに常に入れておくのはやや難がある。薬物療法の進歩とともに薬剤数はこれからも増え続けることが予想され、今後ますますこの傾向が強まっていくと考えられる。活字をこれ以上小さくするのは難しいので、今後どのようにされるのか少し心配である。電子媒体を活用するという方法もあるが、やはり紙媒体の手軽さも捨て難い。今後、これ以上頁数を増やさない、あるいは減らす工夫をお願いしたい。そのほかに気が付いたことは、薬剤の商品名が基本的に和文のみで、欧文名がどこにも出てこない

ことである。薬剤の欧文索引がないのは頁数を節約するために仕方ないと思うが、個々の薬剤の欄にも欧文商品名が記載されていない(一般名の欧文記載はある)。これは改良すべき点と思われた。

ともあれ本書は、類書が多い中、臨床医にとって非常に便利で使いやすい、薬剤の reference book である。薬物療法は日進月歩であり、日々多くの薬剤が上梓されている。また、医学の進歩に伴って、まったく新しいジャンルの医薬品も登場している。高齢化の進展により、超高齢者における薬物療法の課題や薬物の相互作用など、薬物療法に注意が必要な事項や領域も今後さらに増加すると思われるし、また後発医薬品を使用する機会もさらに増えていくであろう。このような、薬物療法の変化と進歩に対応できるように配慮されている本書は、わが国における薬物療法の適切な実践に役立つものであることを確信し、すべての医療人にお勧めしたい。

● A6 頁 1312 2014 年
定価：本体 4,200 円＋税
[ISBN978-4-260-01751-0]
医学書院刊